

組織名	(農)サンファーム大戸 おおど (代表:中川 巧)	農業地域類型	平地農業地域
経営理念	自然の恵みを慈しみ育てる	社員等	構成員19名、常時雇用5名
経営面積	72.0ha(水稻54.2ha、大豆・小麦7.5ha、枝豆8.8ha)、イチゴハウス4棟(1,000㎡)、育苗ハウス12棟(2,800㎡)		



1. 経緯

- 平成5年、弥彦村大戸（おおど）地区の兼業農家10戸（農地約20ha）において、任意組織の大戸水稻生産組合を立ち上げた。
水稻、大豆、枝豆、ネギ、イチゴ、ストック（花卉）等の作付けによる**収益向上の取組を進め**、更に、平成19年、経営所得安定対策の法人化計画に基づき、（農）サンファーム大戸を14戸で設立した。
- 多品目生産はコスト高、生産効率を下げる等の問題があったため、**園芸品目を枝豆・イチゴに絞り、収量や品質を安定させ周年作業体系を確立**した。
水稻や枝豆等の増産に伴い労働力不足となったが、構成員の子ども（30代、40代）が平成19年に2名、平成24年に1名、平成26年に1名就労し、令和3年に地区外の若者（20代）1名を雇用して、現在、役員2名と従業員5名で基幹的農作業を行っている。

2. 課題と対策

- ほ場整備を契機に、借受面積（台帳面積）を平成26年：47.6ha→令和元年：57.0ha→令和4年：73.5haと段階的に増やして水稻や枝豆等の増産を図ったため、労働力不足となったが、**従業員を雇用することにより対応**している。



自社直売所



弥彦村枝豆の作業場



伊彌彦米のほ場



人気の「越後姫」



枝豆の荒選の様子



代表と従業員

3. 特徴的な取組や工夫していること

- 枝豆は、近隣の2法人と連携して3法人**で「弥彦村農業機械利用組合」を設立し、コンバイン等の共同利用を進めるとともに、弥彦村が整備した共同選果場の活用により、**栽培面積を平成30年の4.0haから8.8haに拡大**。早生・晩生品種の長期栽培（7月～10月頃）により、**需要期を見据えた出荷や直接販売等ができるため、コメに次ぐ売上の柱となった**。
- イチゴは担当の従業員が、毎日の栽培管理により病害虫防除を行うとともに、**自社直売所での販売（約8割）**によって安定収入につなげている。
- 近隣の2法人とのコメのJGAP認証取得の勉強会を契機に、平成29年に「神米会」を発足し、「伊彌彦米（いやひこまい）」の直売を開始したが、販売量が増加したため**3法人（上記枝豆と同法人）連携**による株式会社伊彌彦を令和元年に設立し、**水稻の直売強化**を図っている。
- 夏期間の労力軽減を図るため、**ドローンによる防除作業**を行っている。
- 田植えや枝豆収穫の繁忙期には、地域住民や、従業員の知人などにも積極的に作業へ参加してもらっていることから、**地域への利益還元**を目指している。



人気の「伊彌彦茶豆」

4. 今後の目標

- ICTの導入**によりほ場ごとの生産管理を行っているが、施肥計画や品質管理にも活用を広げて**作業の省力化や高品質栽培を進める**。